

2021年4月17日(土) 楽しい俳句教室①

今年度一発目の俳句教室は、あいにくの雨でした。そのため、プログラムを変更し、前半は俳句の基本についての講義を受け、後半は決まった文を使って俳句を作り、それを評価してもらいました。



講師の兼久ちわき先生です。的確なアドバイスとちょっぴり辛口なコメントで、みなさんの句を評価してくれます。



前半は、俳句の基本についての講義です。俳句とは五・七・五の文で作り、季語という季節の言葉を1つ入れるのが基本です。

春の季語といえば？

- ・桜 ・菫(すみれ) ・山笑う
- ・燕(つばめ) ・土筆(つくし)
- ・春一番 ・末黒野(すぐろの)
- ・若葉 ・残る鴨(のこるかも)
- ・柳 ・鶯(うぐイス) ・芹(せり)
- ・菜種梅雨(なたねづゆ)
- ・時鳥(ほととぎす)

参加者のみなさんにちわき先生から質問！
「春の季語といえば？」

皆さんの回答がこちらです。(左側の表)よく見ると、春の季語ではないものが混ざっています！

「若葉」と「時鳥」は夏の季語です。

現在の春に見られるものでも、季語は旧暦の季節をもとに作られているので、1ヶ月くらいズレがあるそうです。

まずは季語をしっかりと覚えるのが、上手な俳句を詠む第一歩なのかもしれませんね。

季語の話の後は、俳句を作る上でのポイントを説明。

俳句とは、読み手に鮮明に伝わる句、「見える句」を作るのが大切なのだそうです。

作り手が感じたこと、その場の情景などがよく分かる句を作れるように頑張りましょう！

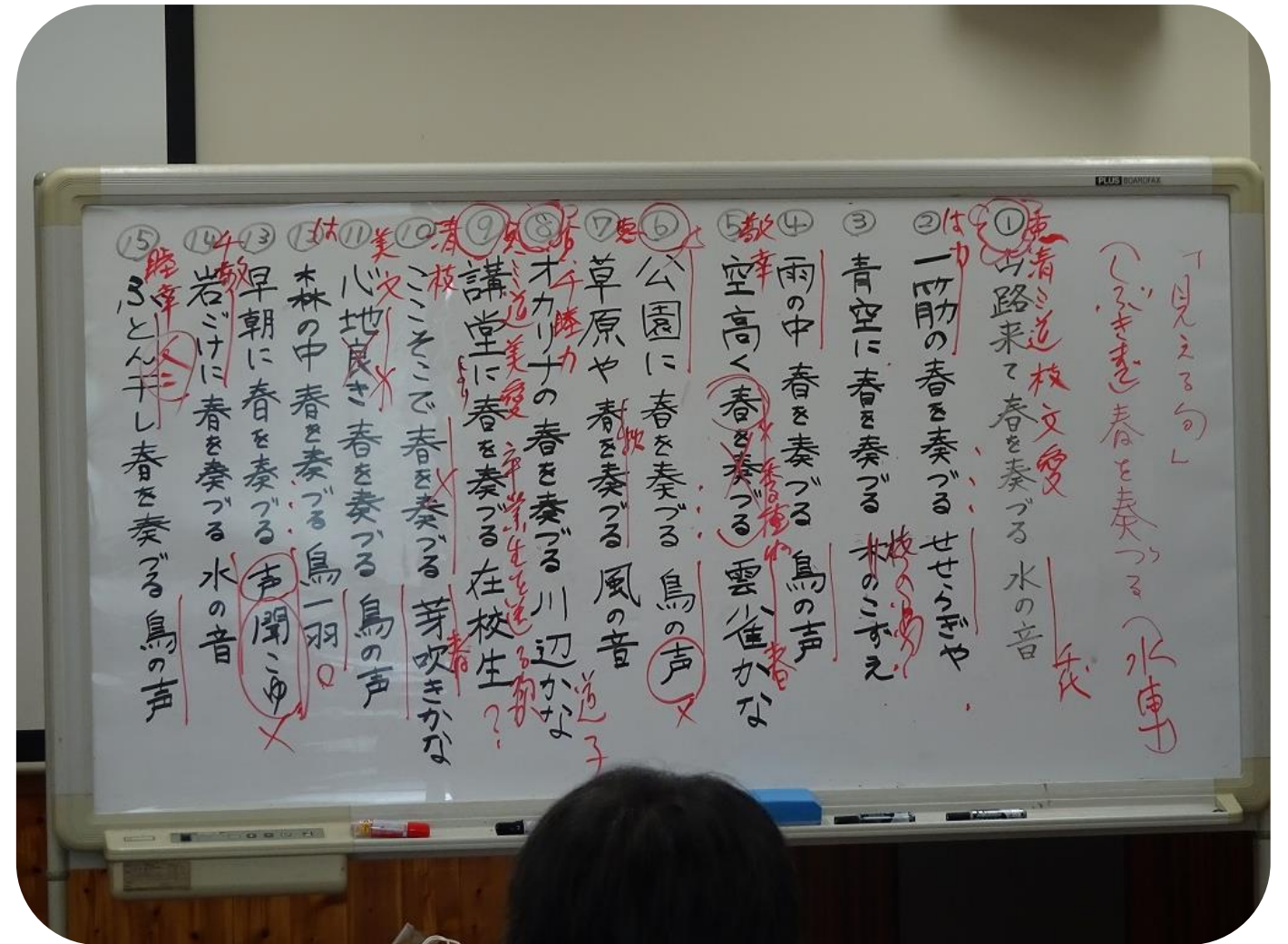
千代選、○番の句。
(良かった句を選びます)



幸治選、○番の句。



後半は俳句作りです。今回は中の句を先生が考え、それに合う上の句と下の句を作ってもらいました。課題の中の句は「春を奏づる」です。俳句を作った後は、1人2句ずつ良い句を選び、最後に先生にそれぞれの句を評価・修正してもらいました。



中の句は同じでも、それぞれ個性のある句ができました！今回のポイントは「見える俳句」俳句を読んだ時の情景がより鮮明に伝わってくる句が好評価でした。それでも赤ペンのない句はなかったもので、これから1年間頑張って学んでいきましょう！